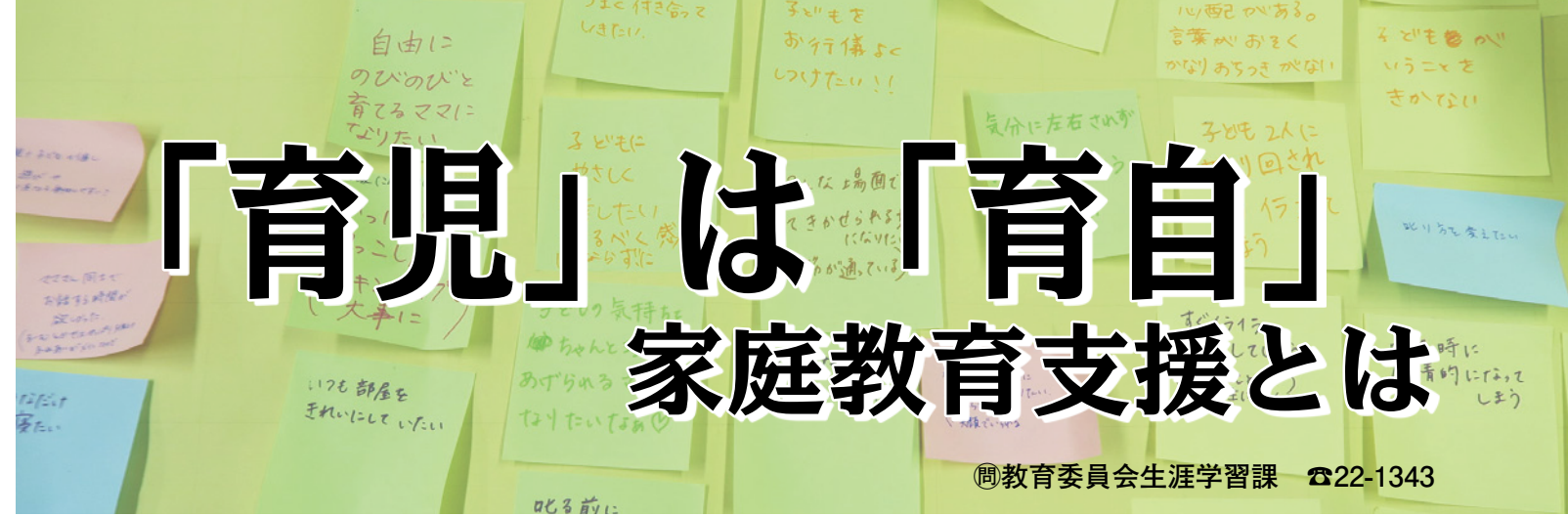


「育児」は「育自」 家庭教育支援とは

☎教育委員会生涯学習課 ☎22-1343



「親になつて
「穏やかなお母さんになりたい。」
「気分が左右されずに子どもと向き合う親になりたい。」
「感情的にならない伝え方を知りたい。」……

これは、中央公民館で開催している「ときめきママ講座」で、子育て中の母親が今悩んでいることや、こんな親になりたいという理想を書いてもらったものです。

子どもが無事に生まれた時の気持ち、小さいわが子を初めて抱いた時の気持ち、皆さんは覚えていますか？ やっと会えたね。私はあなたを絶対に幸せにするからね。そう誓ったのではないのでしょうか。

しかし、子どもが成長していく中で、今の気持ちはどうでしょうか。成長の証だと分かっていくのに、子どもの行動に、ついイライラして怒鳴ってしまふ。本当は、とても心配しているのに、家の中の会話も少なくなり、子どもが何を考えているのか分からないなど、子育てに関する悩みを少なからず感じている方もいるのではないのでしょうか。誰もが同じ。みんな悩んでいます。

ある方もいるのではないのでしょうか。
悩みの解決にむけ「学ぶ」とは、親の成長と、家庭教育の力向上につながります。
「育自」は「育自」、つまり「自分育て」です。
そして、公民館などで行われている講座に参加したり、本を読んだり、地域の子育ての先輩にアドバイスをもらったりなど、学びの方法はたくさんあります。

家庭教育は教育の出発点

「子どもを育てていく」つまり、家庭の中で親が子どもに対して行う教育を「家庭教育」と呼んでいます。人は、家庭から社会に出て行くので、学校や、幼稚園などに通う以前に「家庭教育」で行われる教育は、すべての教育の出発点であり、子どもにとって家庭は常に心のよりどころ、癒やしの空間です。

しかし今、子どもへの接し方や教育の仕方に悩む親、しつけや子育てに自信が持てない親、そして虐待する親など家庭教育の教育力低下が懸念されています。

子育ての「昔」と「今」

なぜ、家庭教育の教育力が低下してしまっているのでしょうか。ひと昔前は、家庭の中におじいちゃん、おばあちゃんがいいたり、近所の人たちの見守りの目もあつたりしました。親以外の周りの大人に、大切なことを教えてもらった記憶がある方も多くあります。つまり、昔は家族や地域のつながりの中で子育てがなされ、家庭や地域の「教育力」が高い時代でした。

しかし、時代の移り変わりと共に、核家族が増え、地域とのつながりの希薄化や、子育ての

時間を十分に取ることが難しい雇用環境など、地域や家庭を取り巻く状況は、大きく様変わりしています。
家庭教育の教育力低下は、それぞれの親だけの問題ではないのです。
「今の親は…」という言葉も耳にしますが、昔も今も、子どもを大事に思う気持ちは同じです。今の親も、頑張つて子育てをしています。
自分の家庭の子どものことなので、親が責任を持って教育を行うのは当然です。しかし、その一方で、その子どもたちは、



誰もが同じ。
悩んで、学んで、
親になっていく

未来の担い手、「社会の宝」なのです。社会の変化が家庭での教育力低下の要因の一つと言われる中、社会にも、子どもたちを育てていく責任があると考えられます。
そのため、国（文部科学省）では、家庭教育の充実につながる親の学びを支援する「家庭教育支援」の取り組みを推進しており、県や市も連携して取り組んでいます。



「親が学ぶ」意味

子育てに向き合うなかでさまざまな悩みが出てきますが、それを解決する方法や、どう接することが子どものためになるのかなど、親にも分からないことがたくさんあります。「誰かに教えてほしい」と思ったことが



▲白石第二小学校で行った出前講座（平成27年10月）

親・保護者向け研修 「親の学びのプログラム」の活用

学びの方法の一つとして、本市では、家庭教育の社会的な課題に対応するために作成された、「宮城県版親の学びのプログラム・親のみちしるべ」を活用しています。

ある方もいるのではないのでしょうか。
悩みの解決にむけ「学ぶ」とは、親の成長と、家庭教育の力向上につながります。
「育自」は「育自」、つまり「自分育て」です。
そして、公民館などで行われている講座に参加したり、本を読んだり、地域の子育ての先輩にアドバイスをもらったりなど、学びの方法はたくさんあります。



▲白石高校で行った出前講座（平成27年12月）

このプログラムは、幼稚園や小学校などの保護者や、未来の親になる中・高校生などを対象に出前講座で実施しています。
子どもが生まれた時、小学校入学時、子どもが思春期を迎えた時など、成長段階に合わせた内容や、中・高校生向けのものなど、15種類のプログラムがあり豊富な内容です。
また、ワークショップ形式で参加者同士が交流しながら、子育てや自分への「気付き」を得

るきっかけになるよう工夫されています。
ワークショップの進行役は、子育てサポーターや保健師、民生委員など地域の人材によって構成された家庭教育支援チームが行い、本市にも平成26年10月に「しろいし家庭教育支援チームペアレントらん」が発足しています。
出前講座の詳細は、生涯学習課までお問い合わせください。

宮城県版親の学びのプログラムプログラム⑧「親と子のコミュニケーション」資料より
あなたが誰かに「しなさい」「○○さんは出来るのに」なんて言われたらイヤですよ。あなたが言われてイヤな言葉は、子どもはその2倍イヤだと感じているかもしれせん。「どんなふうに伝えたら良いかな」と迷った時は「どんなふうに言われたら分かるか（納得するか）」を考えてみましょう。小さな子どもでも考えを持った「一人の人間」なんだということを忘れずに。

しろいし子育て応援講座

本市では、「親の学び」の機会を提供するとともに、支援者の輪を広げることを目的に「しろいし子育て応援講座」を実施しています。9・10月に開催する講座の日程は、次の通りです。興味のある方は、生涯学習課にお申し込みください。

【9月講座】

- 日時 9月9日(金) 10時から11時30分まで
- テーマ 親子支援のための「わらべうた・手作りおもちゃ」
- 講師 佐々木とし子さん(宮城県家庭教育支援チーム協議

【10月講座】

- 日時 10月18日(火) 10時から11時30分まで
- テーマ「絵本から学ぶ子育て」
- 講師 佐々木博美さん(大ちゃん文庫主宰)
- 内容 タウン症の次男に言葉を教えるため、積極的に生活に絵本を取り入れ、交流の場を増やすため、自宅に大ちゃん文庫を立ち上げる。その後も、次男の不登校やご自身の病気など、数々の出来事乗り越えた実体験に基づくお話。
- 対象者 家庭教育に関心のある方
- 場所 中央公民館2階 講座室

